



エルサルバドル共和国
(Republic of El Salvador)



- 中南米で初の青年海外協力隊派遣国。
- 内戦後初の選挙に、中南米で初の国連PKO選挙監視要員派遣。
- 日本はエルサルバドルの内戦後の復興、ハリケーン、大地震等の大規模自然災害の緊急援助・復興を積極的に支援。

国概要																			
(基礎データ)	(略史)																		
- 面積: 21,000平方キロメートル(九州の半分) - 人口: 613万人(2015年, 世銀) - 首都: サンサルバドル(首都圏人口175万人, 2014年) - 民族: スペイン系と先住民の混血が84%(他に欧州系, 先住民等) - 言語: スペイン語 - 宗教: キリスト教(カトリック約6割, プロテスタント3割) - 政体: 立憲共和制 - 議会: 一院制(84議席) - GDP: 25,850百万ドル(2015年, 中銀) - 一人あたりGNI: 3,780ドル(2014年, 世銀) - 経済成長率: 1.9%(2015年, 中銀) - 失業率: 7.0%(2014年, 経済省) ※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。	<table><tr><td>1525年</td><td>スペイン人がサンサルバドル市を建設 その後、グアテマラ総督領に編入</td></tr><tr><td>1821年</td><td>グアテマラ総督府、スペインより独立</td></tr><tr><td>1823年</td><td>中米諸州連合結成</td></tr><tr><td>1841年</td><td>中米諸州連合より分離独立</td></tr><tr><td>1979年</td><td>クーデターにより革命評議会発足 反政府ゲリラと政府軍の内戦状態になる</td></tr><tr><td>1989年</td><td>国民共和同盟(ARENA)政権</td></tr><tr><td>1992年</td><td>政府とFMLNの間で和平合意調印、内戦終結</td></tr><tr><td>2001年</td><td>1月と2月に大地震が発生、被災者150万人</td></tr><tr><td>2009年</td><td>FMLN(左派)政権 内戦後初、20年ぶりの政権交代</td></tr></table>	1525年	スペイン人がサンサルバドル市を建設 その後、グアテマラ総督領に編入	1821年	グアテマラ総督府、スペインより独立	1823年	中米諸州連合結成	1841年	中米諸州連合より分離独立	1979年	クーデターにより革命評議会発足 反政府ゲリラと政府軍の内戦状態になる	1989年	国民共和同盟(ARENA)政権	1992年	政府とFMLNの間で和平合意調印、内戦終結	2001年	1月と2月に大地震が発生、被災者150万人	2009年	FMLN(左派)政権 内戦後初、20年ぶりの政権交代
1525年	スペイン人がサンサルバドル市を建設 その後、グアテマラ総督領に編入																		
1821年	グアテマラ総督府、スペインより独立																		
1823年	中米諸州連合結成																		
1841年	中米諸州連合より分離独立																		
1979年	クーデターにより革命評議会発足 反政府ゲリラと政府軍の内戦状態になる																		
1989年	国民共和同盟(ARENA)政権																		
1992年	政府とFMLNの間で和平合意調印、内戦終結																		
2001年	1月と2月に大地震が発生、被災者150万人																		
2009年	FMLN(左派)政権 内戦後初、20年ぶりの政権交代																		

援助実績(E/Nベース)	
スキーム	額(累計)／人数(延べ)
円借款	574.72億円 (2014年度末時点)
無償資金協力	362.21億円 (2014年度末時点)
技術協力	230.57億円 (2014年度末時点)
青年海外協力隊	延べ533人 (2016年6月時点で35人)
シニア海外ボランティア	延べ36人 (2016年6月時点で6人)

出典: ODA国別データブック2015
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)
(注) 青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

エルサルバドルへの主要ODA供与国 (2013年, 出典: OECD/DAC, 支出総額ベース)		
	国名	百万ドル
1	米国	64.84
2	スペイン	35.23
3	ドイツ	26.11
4	日本	22.91
5	ルクセンブルク	9.80

経済関係	
スキーム	金額／人数(直近年)
日本からエルサルバドルへの輸出	1,195億円 (2015年, 財務省貿易統計)
エルサルバドルから日本への輸出	31.8億円 (2015年, 財務省貿易統計)
日本からエルサルバドルの直接投資	4440万ドル (2015年, エルサルバドル中銀)
在エルサルバドル日系企業数	4社 (2015年10月, 外務省統計)
日本企業現地法人の雇用数	1,870人 (2015年, 在エルサルバドル大)

人的つながり	
項目	人数(直近年)
エルサルバドルにおける在留邦人数	179人 (2016年6月, 在エルサルバドル大使館)
在日エルサルバドル人数	119人 (2015年12月, 法務省統計)
エルサルバドルから日本への留学生数	16名 (2015年5月, (独)JASSO調査)
エルサルバドルからの文部科学省国費留学生累計	86名 (2016年6月, 在エルサルバドル大使館)
エルサルバドルからのJICA研修生累計	1,995人(2016年6月, JICAエルサルバドル事務所)

日本とエルサルバドル共和国との協力年表

年代	案件
1935年	外交関係樹立
1955年	戦後日本企業の海外進出の草分けとして呉羽紡績(後に東洋紡と合併)がエルサルバドルに進出(現IUSA社)。1976年、首都に平生東洋紡副社長を記念し、約7万平米のサブロー・ヒラオ公園が建設され、現在も市民の憩いの場
1968年	青年海外協力隊(JOCV)派遣取極締結、中南米で最初の派遣国
1974年	日本の円借款で建設された首都のモンセニョール・ロメロ国際空港(旧コマラパ空港)が完成
1992年	内戦が終了、約7万5千人の死者を出し、多くのインフラが破壊された内戦の復興・和平プロセスに日本は92-97年で約450億円支援
1994年	3月と4月の選挙に国連エルサルバドル監視団(ONUSAL)に監視員を米国に次ぐ各15名派遣、日本が米州で要員派遣を行った初の国連PKO
1995-2000年	京都外国語大学がカサブランカ遺跡を考古学調査ピラミッド神殿等を修復後、遺跡公園化
1998年	JICAエルサルバドル駐在員事務所設置
1998年	ハリケーン・ミッチ災害により被災者8万人、日本は緊急支援6万ドル、復興支援54億円を供与
2001年	1月と2月にM6を超える大地震が発生、日本は医療チームの派遣、緊急物資支援、緊急無償50万ドル、仮設住宅機材213万ドル、緊急シェルター建設のためのNGO支援約4千万円を実施。復興支援として、ノンプロ無償10億円、災害復旧関連の草の根12件、約9千万円を供与
2002-2008年	名古屋大学調査団が、JOCV考古学隊員とカサブランカ遺跡及びタスマル遺跡公園を整備
2005年	技術協力協定締結 外交関係樹立70周年 豪雨災害に対する緊急援助
2006年	JICAエルサルバドル事務所設置
2007-2011年	看護基礎・継続強化プロジェクト実施 天使のプロジェクトとも呼ばれた本件プロジェクトは地域全体にも裨益、2008年に南南協力ハイレベル会合で優秀賞を受賞
2014年	円借款「サンミゲル市バイパス建設計画」(125.95億円)
2015年	災害復旧スタンド・バイ借款交換公文締結 外交関係樹立80周年



JOCVは二国間の人的交流のシンボルとして高い評価。写真は、東日本大震災の直後、フネス大統領から激励を受けるJOCV。



中米最大級のハブ空港



コミュニティとの連携で監視体制が確立されたシャージャス病対策。



機材供与、専門家による技術移転等を通じて、様々な分野・アプローチで協力が行われている防災協力。



2007年、カサブランカ遺跡公園に日本の協力で建設された藍工房。



2005年、外交関係樹立70周年の際にエルサルバドルで発行された記念切手。日本の援助で建設された国際空港や国道のインターチェンジの写真が使われている。



国際社会からも、成果の著しい案件として高い評価を受け、エルサルバドルだけでなく広く中米に展開された。



市民の安全確保のため、日本の交番を建設し、地域警察モデルを普及。